法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-15

中国古典に由来する日中熟語や諺の相違点について(2)

Ling, Zhi Wei / 凌, 志偉

(出版者 / Publisher)
法政大学教養部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編
(巻 / Volume)
92
(開始ページ / Start Page)
131
(終了ページ / End Page)
168
(発行年 / Year)
1995-02
(URL)
https://doi.org/10.15002/00004848

Hosei University Repository

中国古典に由来する日中熟語や諺の相違点について (2)

凌　志偉

◦傍(かたわら)に人無きが如(ごと)し

荆軻嗜酒，日與狗屠及高漸離飲於燕市。酒酣以往，高漸離擊筑，荆軻和而歌於市中，相樂也，已而相泣，旁若無人者。

史記・刺客列傳

中：旁若无人。

◦勝ちを千里の外に決す

夫運籌策帷幄之中，決勝於千里之外，吾不如子房。

史記・高祖本紀

中：决胜于千里之外。

◦渇(かつ)に臨(のぞ)みて井を穿(うが)つ(＝掘る)

夫病已成而後藥之，亂已成而後治之，譬猶渇而穿井，斗而鑄錐，不亦晚乎。

黄帝內經・素問・四氣調神大論

中：临渴掘井。

◦渇して盗泉(とうせん)の水を飲まず

(孔子)過於盗泉，渇矣而不飲，惡其名也。

尸子

渇不飲盗泉水，熱不息惡木陰。

Hosei University Repository

文選・晉・陸士衡・猛虎行

中：渴不饮盗泉水。

◦褐(かつ)を釈(と)く
或解縛而相，或釋褐而傳。
揚雄・解嘲

中：释褐，做官。

◦糧(かて)を捨てて船を沈む
項羽乃悉引兵渡河，皆沈船，破釜甑，燒廬舍，持三日糧，以示士卒必死，無一還心。
史記・項羽本紀

中：破釜沈舟(同じ出典ながら，使う部分が違います。)

◦瓜田(かでん)に履(くつ)を納(い)れず。
君子防未然，不處嫌疑間，瓜田不納履，李下不整冠。
古樂府・君子行

中：瓜田不纳履。瓜田李下，事避嫌疑。

◦臥榻(がとう)の側(かたわら)，他人の鼾睡(かんすい)を容れず
王師征包茅於李煜，徐騎省鉉將命請緩師，其書累千言。上諭之曰，江南亦何罪，但天下一家，臥榻之側，豈容他人鼾睡耶。
岳珂・桯史・徐鉉入聘。

中：(自国の近隣に独立国を認めないという意味から)国中不可另有国。
注：現代中国語の“卧榻之側，岂容他人鼾睡”は自分の縄張の中で，他人の手出しは一切認めないという意味です。

◦鼎(かなえ)の軽重(けいちょう)を問う
定王使王孫滿勞楚子。楚子問鼎之輕重焉。對曰，在德不在鼎。
春秋左傳・宣公三年

中：① (統治者を軽んじ，これを滅ぼして天下を取ろうとするという意味から)问鼎(中原)。

Hosei University Repository

② （その人の能力を疑うという意味から）怀疑此君是否有能力，是否这种料子。

◦鼎（かなえ）の沸（わ）くが如（ごと）し
諠譁鼎沸，則咙聒宇宙。
左思・蜀都賦

中：人声鼎沸。

◦鼎（かなえ）を扛（あ）ぐ
籍長八尺餘，力能扛鼎，才氣過人。
史記・項羽本紀

中：力能扛鼎。

◦禍福（かふく）は糾（あざな）える縄（なわ）の如（ごと）し
因禍爲福，成敗之轉，譬若糾纆。
史記・南越傳

中：祸福相生，祸福相倚。

◦禍福（かふく）門（もん）なし
禍福無門，唯人所召。
春秋左傳・襄公二三年

中：祸福无门

◦壁（かべ）に耳あり
古者有二言：牆有耳，伏寇在側。牆有耳者，微謀外洩之謂也。
管子・君臣下

中：隔墙有耳

◦壁（かべ）の中の書（ふみ）
武帝末，魯恭王壞孔子宅，欲以廣其宮，而得“古文尚書”及“禮記”“論語”“孝經”凡數拾篇，皆古字也。
漢書・藝文志

Hosei University Repository

中：壁中书。壁书。壁经。

◦画餅(がべい)に歸す
選擧莫取有名，名如畫地作餅，不可啖也。
三國志・魏書・盧毓傳

中：徒劳无功。枉费心机。
注：中国語は出典にちなんで“画饼充饥”(画餅(がべい)飢(う)えに充(み)たず)の形で使用する。

◦かまどに媚(こ)ぶ
與其媚於奧，寧媚於竈。
論語・八佾

中：媚灶。巴结权势。

◦上(かみ)を学ぶ下(しも)
子曰，下之事也，不從其所令，從其所行。上好是物，下必有甚者矣。
禮記・緇衣

中：上行下效。上有所好，下必甚焉。

◦神は非礼を受けず
(季氏旅於泰山)包曰，神不享非禮，林放尙知問禮，泰山之神，反不如林放邪，欲誣而祭之也。
論語解集・八佾

中：神不受非礼

◦烏(からす)に反哺(はんぽ)の孝あり
純黑而反哺者謂之慈烏。
小爾雅・廣鳥

中：返哺之恩。乌鸟私情。乌鸦反哺。

◦烏(からす)の頭(かしら)白く馬(うま)角(つの)を生ず。＝烏の頭白くなる
燕丹求歸，秦王曰，烏頭白，馬生角，乃許耳。

Hosei University Repository

史記・刺客列傳索引

中：乌白马角。乌头白，马生角。

◦烏(からす)の雌雄(しゆう)

具曰予聖，誰知烏之雌雄。

詩經・小雅・正月

中：谁知乌之雌雄。人心难测。

◦画竜(がりゅう)点睛(てんせい)を欠く

(武帝崇飾佛寺，多命僧繇畫之。)金陵安樂寺四白龍，不點眼睛，每云，點睛卽飛去。人以爲妄誕，固請點之。須臾，雷電破壁。兩龍乘雲騰去上天，二龍未點睛者見在。

張彦遠・歷代名畫記・卷七

中：画龙不点睛。(中国語としては"画龙点睛"の形で使われるのが普通です。)

◦彼も人なり予(われ)も人なり

責於己曰，彼人也，予人也，彼能是，而我乃不能是。

韓愈・原毀

中：他是人，我也是人。他能做得到的，我也能做得到。

◦彼を知り己(おのれ)を知れば百戰殆(あやう)からず

知彼知己，百戰不殆。不知彼而知己，一勝一負。不知彼不知己，每戰必敗。

孫子・謀攻

中：知彼知己，百战不殆。

◦棺(かん)を蓋(おお)いて事(こと)定(さだ)まる。

丈夫蓋棺事始定，君今幸未成老翁，何恨憔悴在山中。

杜甫・君不見簡蘇徯

中：盖棺论定。

◦款(かん)通ず

Hosei University Repository

舉三荆之地，通款梁國。

北史・盧柔傳

中：通款(曲)。

◦間(かん)髪(はつ)容(い)れず。

其出不出，間不容髮。

說苑・正諫

中：间不容发。

◦歓(かん)を尽くす

君子不盡人之歡。

禮記・曲禮上

中：尽欢。

◦館(かん)を捐(す)つ

今奉陽君捐館舍。

戰國策・趙策・肅侯

中：捐馆。物化。物故。

◦干戈(かんか)を動かす＝干戈を交(まじ)える

乃使劉敬往結和親之約，然後天下忘干戈之事。

史記・主父偃傳

中：动干戈。

◦頷下(がんか)の珠(たま)

夫千金之珠，必在九重之淵而驪龍頷下。

莊子・列禦寇

中：稀世之珍。

◦緩頰(かんきょう)を煩(わずら)わす

緩頰往說魏豹，能下之吾以萬戶封。

史記・魏豹傳

Hosei University Repository

中：说项。求情。缓颊。

◦間隙(かんげき)を生ずる。
乃文子成晉荆之盟，豐兄弟之國，使無有間隙。
國語晉八

中：产生嫌隙。心存芥蒂。心里有疙瘩。

◦寒喧(かんけん)を叙(じょ)す
帝跪拜，問寒喧畢，立，因呼帝共坐。
太平廣記三漢班固漢武內傳

中：道寒喧。叙寒喧。

◦函谷関(かんこくかん)の鶏鳴(けいめい)
孟嘗君至關，關法，雞鳴而出客。孟嘗君恐追至，客之居下坐者，有能爲雞鳴。遂發傳出。
史記・孟嘗君傳

中：鸡鸣狗盗(之辈)

◦寒暑(かんしょ)を叙(じょ)す
邂逅兩相逢，別來問寒暑。
韋應物・相逢行

中：噓寒问暖

◦顔色(がんしょく)無し
回眸一笑百媚生，六宮粉黛無顔色。
白居易・長恨歌

中：① (恥・驚き・恐れなどのために顔が青くなるという意味から)惊惶失色。
② (圧倒されて手も足も出ないさまという意味から)垂头丧气。

◦韓信(かんしん)の股(また)くぐり
淮陰屠中少年有侮信者，曰，若雖長大，好帶刀劍，中情怯耳。衆辱之曰，

Hosei University Repository

信能死，刺我，不能死，出我袴下。於是信孰視之，俯出袴下，蒲伏。一市人皆笑信，以爲怯。

史記・淮陰侯傳

中：跨下之辱。

◦歓心(かんしん)を買う

斯之來使，以奉秦王之歓心，願效便計，豈陛下所以逆賤臣者邪？

韓非子・存韓

中：寻求(某某的)欢心。投(某某)所好。

◦甘井(かんせい)先(ま)ず竭(つ)く

直木先伐，甘井先竭。

莊子・山木

中：甘井先竭

◦間然(かんぜん)する所がない

禹，吾無間然矣。

論語・泰伯

中：无懈可击。无隙可乘。

◦渙然(かんぜん)氷釈(ひょうしゃく)する

渙然冰釋，怡然理順。

杜預文・春秋左氏傳序

渙兮若冰之將釋。

老子・第十五章

中：渙然冰释。冰释理顺。

◦邯鄲(かんたん)の歩(あゆ)み

且子獨不聞夫壽陵餘子之學行於邯鄲與。未得國能，又失其故行矣，直匍匐而歸耳。

莊子・秋水

中：邯郸学步。

Hosei University Repository

◦ 邯鄲(かんたん)の夢(ゆめ)

開元十九年，道者呂翁于邯鄲邸舍中値少年盧生，自嘆其困，翁操囊中枕授之曰，枕此，當令子榮適如意。生於寐中，娶清河崔氏女，擧進士登甲，官河西隴右節度，尋拜中書侍郎同中書門下平章事，掌大政十年，封趙國公，三十餘年出入中外，崇盛無比。老乞骸骨，不許，卒於官，欠伸而寤。初主人蒸黃粱爲饌，時尙未熟也，呂翁笑謂曰，人世之事亦由是焉。生曰，此先生所以窒吾欲也，敢不受教工再拜從而去。

文苑英華八三三・唐・李泌・枕中記

中：邯鄲梦。黃粱梦。

◦ 肝胆(かんたん)相照(あいて)らす

今始至之日，必延見僚寀，歷述弊端，令悃愊無華，肝胆相照。

宋・胡大初・昼廉緒論・僚寀

中：肝胆相照。

◦ 肝胆(かんたん)地に塗(まみ)る＝肝脳地に塗(まみ)る(その項を参照)

今楚漢分爭，使天下無罪之人，肝胆涂地，父子暴骨於中野，不可勝數。

史記・淮陰侯傳

◦ 肝胆(かんたん)を傾(かたむ)ける

江湖一日十年舊，談笑相逢肝胆傾。

曾鞏・送宣州杜都詩

中：披肝沥胆

◦ 眼中(がんちゅう)に置かない(＝入れない)

吟去星辰筆下動，醉來嵩華眼中無。

殷文王・覽陸龜蒙舊集詩

中：不放在眼里。

◦ 肝脳(かんのう)地(ち)に塗(まみ)る

使天下之民，肝脳塗地，父子暴骨於中野，不可勝數。

Hosei University Repository

史記・劉敬傳

中：① （むごたらしく殺されるという意味から）肝脳涂地。

② （絶体絶命の窮地に陥ったという意味から）进退维谷。一筹莫展。焦头烂额。

注：中国語としては“肝脳涂地”は主君または事業に忠誠を誓う時に使われることが多い。

◦汗馬（かんば）の労（ろう）

今蕭何未嘗有汗馬之勞，徒持文墨，議論不戰。

史記・蕭相國世家

中：汗马功劳

◦完膚（かんぷ）無きまで

廼佯瘖不答，炙無完膚。

唐書・劉廼傳

中：体无完肤。

◦管鮑（かんぽう）の交わり

管仲嘗嘆曰，生我者父母也，知我者鮑叔也。故世稱管鮑善交者。

列子・生命

中：管鲍之交。

◦冠（かんむり）旧（ふる）けれど沓（くっ）にははかず

夫冠雖賤，頭必戴之。履雖貴，足必履之。。

韓非子・外儲說

中：① （上下、貴賤の別はきまっていて，乱すことができないという意味から）上下尊卑不可颠倒。

② （よい物はいたんでも値打ちがあるという意味から）死了的骆驼比马大。

◦冠（かんむり）を掛（か）く

泰始之朝，掛冠辭世，循捨家業，隱於太平。

Hosei University Repository

南齊書杜京產傳張融薦京產表

中：挂冠而去。

◦冠(かんむり)を弾(はじ)く
新沐者必彈冠。
史記・屈原傳

中：出仕。做官。

◦寛猛(かんもう)相済(あいすく)う
鄭子產謂子太叔曰，惟有德者能以寛服民。其次莫如猛。仲尼曰，善哉！政寛則民慢，慢則糾之以猛。猛則民殘。殘則施之以寛，寛以濟猛，猛以濟寛，政是以和。
春秋左傳・昭公二十年

中：寛猛相済。

◦歓楽(かんらく)極(きわ)まりて哀情(あいじょう)多し
歡樂極兮哀情多，少壯幾時兮奈老何。
漢武帝・秋風辭

中：乐极生悲。

◦木静かならんと欲すれども風止(や)まず。
樹欲靜而風不止，子欲養而親不待也。
韓詩外傳——第九卷

中：子欲养而亲不待。
注：中国語の「树欲静而风不止」は客観的な情勢は人間の主観的な願望によって変えられるものではないという意味です。

◦木に縁(よ)りて魚(うお)を求む
以若所爲，求若所欲，猶緣木而求魚也。
孟子・梁惠王上

中：缘木求鱼。

Hosei University Repository

◦気は世を蓋う。

力拔山兮氣蓋勢，時不利兮騅不逝。騅不逝兮可奈何，虞兮虞奈若何。

史記・項羽本紀

中：气吞山河。

◦軌(き)を一(いつ)にする(同じくする)

車一其軌，書罔異文。

謝莊・爲八座江夏王請封禪表

中：① (天下が統一されるという意味から)统一国家(天下)

② (やり方を同じくするという意味から)同出一辙。

◦揆(き)を一(いつ)にする

得志行乎中國，若合符節，先聖後聖，其揆一也。

孟子・離婁下

中：同出一辙。

◦機(き)に臨(のぞ)み変に応ず。

資性和厚，臨機應變，輯穆將士，總攝細務。

宋史・蕭資傳

中：随机应变。临机应变。

◦義(ぎ)を見てせざるは勇(ゆう)無きなり。

子曰，非其鬼而祭之，諂也，見義不爲，無勇也。

論語・爲政

中：见义不为，无勇也。

注：中国語は“见义勇为”の形で使われることが多い。

◦既往(きおう)は咎(とが)めず

子聞之曰，成事不說，遂事不諫，既往不咎。

論語・八佾

中：既往不咎。

Hosei University Repository

◦奇貨(きか)居(お)くべし
呂不韋賈邯鄲，見而憐之，曰，此奇貨可居。
史記・呂不韋傳

中：奇货可居

◦騏驥(ききき)の跼蹐(きょくちょく)は駑馬(とば)の安歩(あんぽ)に如(し)かず。
騏驥之跼蹐，不如駑馬之安步。
史記・淮陰侯傳

中：骐骥之跼蹐，不如驽马之安步。不怕慢，只怕站。

◦危急(ききゅう)存亡(そんぼう)の秋(とき)
今天下三分，益州疲弊，此誠危急存亡之秋也。
諸葛亮・前出師表

中：危急存亡之秋。

◦旗鼓(きこ)の間(かん)に相見(あいまみ)ゆ
願因將軍兵馬，旗鼓相當。
後漢書・隗囂傳

中：相见于战场之上。交锋。
注：現代中国語では“旗鼓相当”は力が伯仲しているという意味です。

◦騎虎(きこ)の勢い
俚語曰，騎虎者勢不得下。
新五代史・唐臣傳一・郭崇韜

中：势成骑虎。骑虎难下。

◦箕山(きざん)の志(こころざし)
而偉長獨懷文抱質，恬淡寡欲，有箕山之志，可謂彬彬君子矣。
三國志王粲傳曹丕與吳質書

中：箕山之志。退隐。

Hosei University Repository

◦箕山(きざん)の節(せつ)
堯舜在上，下有巢由。今明主方隆唐虞之得，小臣欲守箕山之節也。
漢書・鮑宣傳
中：箕山之节。隐居不仕。

◦疑心(ぎしん)暗鬼を生(しょう)ず。
此章猶諺言，疑心生暗鬼也。
列子虛齋口義・說符篇・人有亡鈇者章
中：疑心生暗鬼

◦驥足(きそく)を展(の)ばす
吳將魯肅遺先主書曰，龐士元非百里之才也。使處治中別駕之任，始當展其驥足耳。
蜀志・龐統傳
中：施展才能

◦来(きた)る者は拒(こば)まず
夫子之設科也，往者不追，來者不拒。
孟子・盡心下
中：来者不拒。

◦吉凶(きっきよう)は糾(あざな)える縄の如(ごと)し＝禍福(かふく)は糾(あざな)える縄の如し(その項を参照)

◦驥尾(きび)に付(ふ)す
顏淵雖篤學，附驥尾而行益顯。
史記・伯夷傳
中：附骥尾。追随贤能者。

◦踵(きびす)を接す
故鄉老少，接踵而至，情貌孜孜，若歸於父。
梁書・武帝紀下

Hosei University Repository

中：接踵而来。接踵而至。

◦君(きみ)君(きみ)たらずとも臣(しん)臣(しん)たらざる可(べ)からず
君君，臣臣，父父，子子。
論語・顔淵

中：君君，臣臣，父父，子子。

◦君(きみ)辱(はずかし)めらるれば臣死す。
臣聞之，爲人臣者，君憂臣勞，君辱臣死。
國語・越語下

中：君辱臣死。

◦君は舟，臣(しん)は水
君者舟也，庶人者水也。水則載舟，水則覆舟。
荀子・王制

中：水可載舟，水可覆舟。

◦笈(きゅう)を負う
負笈從師，不遠千里。

史記・蘇秦列傳

中：负笈(游学)

◦裘葛(きゅうかつ)を易(か)う
簡書方厲禁，裘葛屢催年。
柳貫・睡余偶題詩

中：寒来暑往。

◦朽索(きゅうさく)の六馬を馭(ぎょ)するが如し
予臨兆民，懍乎若朽索之馭六馬。
尚書・五子之歌

中：腐索奔马。

Hosei University Repository

◦九死(きゅうし)に一生(いっしょう)を得る。
雖九死其猶未悔。
屈原・離騒
唐劉良注：雖九死無一生，未足悔恨。
中：九死一生。

◦牛耳(ぎゅうじ)を執(と)る
武伯問於高柴田，諸侯盟誰執牛耳。
春秋左傳・哀公十七年
中：执牛耳。

◦九仞(きゅうじん)の功(こう)を一簣(いっき)に虧(か)く
不矜細行，終累大德，爲山九仞，功虧一簣。
書經・旅獒
中：功亏一簣。

◦窮すれば通ず。
困，窮而通。
易經・繫辭下
中：穷則变，变則通。

◦窮鳥(きゅうちょう)懐(ふところ)に入(い)れば猟師(りょうし)も殺さず。
窮鳥入懐，仁人所憫，況死士歸我，常棄之乎。
顔氏家訓・省事
中：穷鸟入怀

◦牛刀を以て鶏(にわとり)を割(さ)く
子之武城，聞弦歌之聲，夫子莞爾而笑曰，割雞焉用牛刀。
論語・陽貨
中：割(杀)鸡焉用牛刀。

Hosei University Repository

◦居は気を移(うつ)す。
居移氣，養移體，大哉居乎。
孟子・盡心上
中：居移气。

◦虚に乗(じよう)ずる
外結英雄，內修農戰，然後簡其精鋭，分爲奇兵，乘虛迭出，以擾河南。
三國志・魏・袁紹傳
中：乘虛(而入)。

◦虚而衝(つ)く
請起其兵擣三峽之虛，則賊勢必分。
唐書・李吉甫傳
中：乘虛(而入)。

◦郷原(きょうげん)は徳の賊(ぞく)
鄉原，德之賊也。
論語・陽貨
中：乡原，德之贼也。不辨是非随处讨好的人，是道德的大害。

◦強将(きょうしょう)の下(もと)に弱卒(じゃくそつ)無し
俗語云，强將下無弱兵，眞可信。
蘇軾・題連公壁
中：强将手下无弱兵。

◦胸中に成竹(せいちく)あり
故畫竹，必先得成竹於胸中。
蘇軾・文與可畫筼筜谷偃竹記
中：成竹在胸。胸有成竹。

◦強弩(きょうど)の末(すえ)魯縞(ろこう)に入(い)る能(あた)わず
彊弩之末，力不能入魯縞。

Hosei University Repository

漢書・韓安國傳

中：强弩之末。

◦狂瀾(きょうらん)を既倒(きとう)に廻(めぐ)らす

障百川而東之，廻狂瀾於既倒。

韓愈・進學解

中：挽狂瀾于既倒。

◦玉山(ぎょくざん)頽(くず)る

嵇叔夜之爲人也，巖巖若孤松之獨立，其醉也，傀俄若玉山之將崩。

世說新語・容止

中：玉山頽。玉山崩。玉山倒。

◦玉趾(ぎょくし)を挙(あ)ぐ

寡君聞君親擧玉趾，將辱於敝邑。

春秋左傳・僖公二六年

中：劳步。劳～的驾去～。

◦漁夫(ぎょふ)の利＝鷸蚌(いつぼう)の争い(その項を参照)

◦魚腹(ぎょふく)に葬(ほうむ)らる

寧赴湘流，葬於江魚之腹中。

楚辭・漁夫

中：葬身鱼腹

◦錐(きり)嚢中(のうちゅう)に処(お)るが如(ごと)し

夫賢士之處世也，譬若錐之處囊中，其末立見。

史記・平原君傳

中：锥处囊中。

◦錐(きり)嚢(ふくろ)を脱(だつ)す

夫賢士之處世也，譬若錐之處囊中，其末立見。〈略〉使遂蚤得處囊中，乃

Hosei University Repository

穎脱而出。

史記・平原君傳

中：脱穎而出。

◦錐(きり)を立つべき地

今秦失德棄義，侵伐諸侯社稷，滅六國之後，使無立錐之地。

史記・留侯世家

中：巴掌大的地方。立锥之地。

◦きりんも老いぬれば駑馬(どば)に劣る。

騏驎之衰也，駑馬先之，孟賁之倦也，女子勝之。

戰國策・齊策・閔王

中：千里马老了还不如驽马。

◦襟(きん)を正す

宋忠，賈誼瞿然而悟，獵纓正襟危坐。

史記・日者列傳

中：正襟(危坐)

◦錦衣(きんい)故郷(こきょう)に帰る

高祖餞於新亭，謂曰，卿衣錦還鄉，朕無西顧之憂矣。

梁書・柳慶遠傳

中：衣锦还乡

◦槿花(きんか)一日(いちじつ)の栄(えい)

松樹千年終是朽，槿花一日自爲榮。

白居易・放言

中：朝荣夕灭。

◦琴瑟(きんしつ)相和す

妻子好合，如鼓琴瑟。

詩經・小雅・常棣篇

Hosei University Repository

中：琴瑟相調。

◦錦上(きんじょう)に花を添える(＝敷く)
又要涪翁作頌，且圖錦上添花。
黄庭堅・了了庵頌

中：锦上添花

◦金石(きんせき)の交(まじ)わり
自以爲與漢王爲金石交。
漢書・韓信傳

中：金石交。

◦金蘭(きんらん)の契(ちぎ)り
二人同心，其利斷金，同心之言，其臭如蘭。
易經・繫辭上
分定金蘭契，言通藥石規。
白居易・代書詩一百七韻寄微之詩

中：金兰之契。金兰契友。

◦金蘭(きんらん)の友
自昔把臂之英，金蘭之友，曾無羊舌下泣之仁，寧慕郗成分宅之德。
劉峻・廣絶交論

中：金兰之友

◦杭(くい)を守る
宋人有耕者，田中有株，兎走觸株，折頸而死，因釋其耒而守株，冀復得兎。兎不可復得，而身爲宋國笑。今欲以先王之政，治當世之亂，皆宋株之類也。
韓非子・五蠹

中：守株待兔

◦空谷(くうこく)の跫音(きょうおん)〔＝足音(そくおん)〕

Hosei University Repository

夫逃虚空者，藜藿柱乎，鼷鼠之逕，踉位其空，聞人足音跫然而喜矣。
荘子・徐無鬼

中：空谷足音

◦愚公(ぐこう)山を移す
太形王屋二山，方七百里，高萬仞，本在冀州之南，河陽之北。北山愚公者，年且九十，面山而居。〈略〉帝感其誠，命夸蛾氏二子，負二山，一厝朔東，一厝雍南，自此冀之南，漢之陰，無隴斷焉。
列子・湯問

中：愚公移山。

◦草を打って蛇(へび)を驚かす。
王魯爲當塗宰，頗以資產爲務，會部民連狀訴主簿貪賄於縣尹，魯乃判曰，汝雖打草，吾已蛇驚。爲好事者口實焉。
鄭文寶・南唐近事

中：① (ある一人をこらしめることで，それに関係する別の者をいましめるという意味から)杀鸡吓猴。杀一儆百。
② (なにげなくしたことで思いがけない結果をまねくという意味から)无心插柳柳成荫。
注：現代中国語の“打草惊蛇”はやぶへびの意味です。

◦愚者(ぐしゃ)も千慮(せんりょ)に一得(いっとく)あり
臣聞智者千慮，必有一失，愚者千慮，必有一得。
史記・淮陰侯列傳

中：愚者一得。

◦虞芮(ぐぜい)の訴え
虞芮之人，有獄不能決，乃如周，入界耕者皆讓畔，民俗皆讓長，虞芮之人皆慚，相謂曰吾所爭，周人所耻，向往爲祇取辱耳，遂還，俱讓而去。
史記・周本紀

中：虞芮之讼。

Hosei University Repository

◦管(くだ)を用いて天を窺(うかが)う
子乃規規然而求之以察，索之以辯，是直用管闚天，用錐指地也，不亦小乎！

莊子・秋水

中：以管窺天。管窺蠡測。

◦口尚(なお)乳臭(にゅうしゅう)あり
食其還，漢王問，魏大將誰也。對曰，柏直。王曰，是口尙臭乳，不能當韓信。

漢書・高帝紀上

中：乳臭未干。

◦口に蜜(みつ)あり，腹に劍(けん)あり
李林甫爲相(略)尤忌文學之士，或陽與之善，啗以甘言而陰陷之。世謂李林甫口有蜜，腹有劍。

資治通鑑・唐玄宗天寶元年

中：口蜜腹劍。

◦口を糊(のり)する
今旣糊口無以至來秋，來秋或復不熟，將如之何。

魏書・崔浩傳

中：糊口

◦口を守ること瓶(かめ)の如くす
富鄭公有“守口如瓶，防意如城”之語。

周密・癸辛雜識別集下・守口如瓶

中：守口如瓶

◦嘴(喙)(くちばし)を入れる
近泰和胡正甫辨證甚悉，吠聲者當無所置喙矣。

焦竑・焦氏筆乘・揚子雲始末辯

中：插嘴。

Hosei University Repository

注：現代中国語は“无庸置喙”、“不容置喙”といった形で使われ，否定の形しかない。

◦唇(くちびる)亡(ほろ)びて歯寒し

諺所謂，輔車相依，唇亡歯寒，其虞虢之謂也。

春秋左傳・僖公五年

中：唇亡齒寒。

◦唇(くちびる)を反(かえ)す

客談，初令下，有不便者。異不應，微反唇。

史記・平準書

中：① (悪口を言うという意味から)说人坏话，骂人，诽谤。

② (あざけるという意味から)讥笑。

注：中国語の“反唇相讥”や“反唇相稽”はいずれも相手の非難に反駁して，逆に相手をあざけたり、責めたりする意味です。

◦国破れて山河あり

國破山河在，城春草木深。

杜甫・春望

中：国破山河在。

◦雲となり雨となる

① 翻手作雲覆手雨，紛紛輕薄何須數。

杜甫・貧交行

中：(物事の変転きわまりないことという意味から)翻云覆雨。

② 傾國傾城漢武帝，爲雲爲雨楚襄王。

劉廷之・公子行

中：(男女の契りという意味から)云雨。

③ (跡形もなく消えてなるという意味から)无影无踪。荡然无存。

注：中国語の“翻云覆雨”は権謀術数をめぐらすという意味で使われることが多い。

Hosei University Repository

◦雲は竜(りゅう)に従い風は虎に従う
同聲相應，同氣相求。水流濕，火就燥。雲從龍，風從虎。
易經・乾卦

中：云龙风虎。

◦車は三寸の轄(くさび)を以て千里も駆(か)く
夫車之所以能轉千里者，以其要在三寸之轄。
淮南子・人間訓

中：小螺丝起大作用。

◦車を摧(くだ)く
太行之路能摧車，若比人心是坦途。巫峽之水能覆舟，若比人心是安流。
白居易・新樂府・太行路

中：人心变幻无常。

◦薫(くん)は香(こう)をもって自(みずか)ら焼く
嗟虖薫以香自燒，膏以明自銷，龔生竟夭天年，非吾徒也。
漢書・龔勝傳

中：薫以香自焚。聪明反被聪明误。

◦君子の過ちは日月(じつげつ)の食(しょく)の如し
子貢曰，君子之過也，如日月之食焉。過也人皆見之，更也人皆仰之。
論語・子張

中：君子之过也，如日月之食焉。

◦君子の九思(きゅうし)
孔子曰，君子有九思。視思明，聽思聰，色思温，貌思恭，言思忠，事思敬，疑思問，忿思難，見思義。
論語・季氏

中：君子有九思。

◦君子の三畏(さんい)

Hosei University Repository

孔子曰，君子有三畏。畏天命，畏大人，畏聖人之言。

論語・季氏

中：君子有三畏。

◦君子の三楽（さんらく）

孟子曰，君子有三樂。而王天下不與存焉。父母俱存，兄弟無故，一樂也。仰不愧於天，俯不怍於人，二樂也。得天下英才而教育之，三樂也。

孟子・盡心上

中：君子三乐。

◦君子の徳は風

君子之德風，小人之德草。草上之風，必偃。

論語・顔淵

中：君子之德风。

◦君子の交わりは淡きこと水の如し。

且君子之交淡若水，小人之交甘若醴，君子淡以親，小人甘以絶。

莊子・山木

中：君子之交淡如（若）水。

◦君子は器（き）ならず

子曰，君子不器。

論語・爲政

中：君子不器。

◦君子は三端（さんたん）を避（さ）く

是以君子避三端。避文士之筆端，避武士之鋒端，避辯士之舌端。

韓詩外傳・七

中：君子避三端。

◦君子は周して比せず，小人は比して周せず

子曰：君子周而不比，小人比而不周。

Hosei University Repository

論語・爲政

中：君子周而不比，小人比而不周。

◦君子は人の美(び)を成す

子曰，君子成人之美，不成人之惡。小人反是。

論語・顔淵

中：君子成人之美。

◦君子は独(ひとり)を慎(つつし)む

如惡惡臭，如好好色，此之謂自謙，故君子必慎其獨也。

大學

中：君子必慎其独。

◦君子は豹変(ひょうへん)す

君子豹變，小人革面。征，凶。

易經・革卦

中：君子豹変。

◦君子は交わり絶ゆとも悪声を出さず。

臣聞，古之君子，交絶不出惡聲，忠臣去國不潔其名。

史記・樂毅傳

中：君子交絶，不出悪声。

◦君父(くんぷ)の仇(あだ)は俱(とも)に天を戴(いだ)かず

父之讐，弗與共戴天。

禮記・曲禮上

中：不共戴天。

◦君命(くんめい)を辱(はずか)しめず

使於四方，不辱君命，可謂士矣。

論語・子路

中：不辱君命。

Hosei University Repository

◦薫蕕(くんゆう)器(うつわ)を同じゅうせず
培塿無松柏，薫蕕不同器。
世説新語・方正
中：薫莸不同器。薫莸异器。一薫一莸。

◦群羊(ぐんよう)を駆って猛虎(もうこ)を攻む
爲從者無以異於驅群羊而攻猛虎也。
戰國策・楚策・懐王
中：(弱い者を大勢集めて強い者を攻めるという意味から)聚众弱以抗强梁。
注：中国語の“驅羊攻虎”は出典と同じように，そんなことをしても，強い者のえじきになるだけで，自ら滅亡を招くことになるという意味です。

◦毛を吹いて疵(きず)を求む
不吹毛而求小疵，不洗垢而察難知。
韓非子・大體
中：① (他人の欠点をことさら見つけ出そうとするという意味から)吹毛求疵。
② (他人の欠点をあばいて，かえって自分の欠点をさらけ出すという意味から)想指出他人的缺点但反而自暴其丑。

◦毛を見て馬を相す
以言擧人，若以毛相馬。
鹽鐵論・利議
中：(言葉だけで人を評価してはいけないの意味から)(不可)以言取人

◦兄(けい)たり難(がた)く弟(てい)たり難し
陳元方子長文有英才，與季方子孝先，各論其父功德，爭不能決，諮於太丘，太丘曰，元方難爲兄，季方難爲弟。
世説新語・德行
中：(同じ位の力量であるという意味から)不分伯仲。工力悉敵。
注：現代中国語の“难兄难弟”はどちらも窮地に立たされているという意味で

Hosei University Repository

す。

◦刑(けい)の疑わしきは軽くせよ
罪疑惟輕，功疑惟重，與其殺不辜，寧失不輕。
書經・大禹謨

中：罪疑惟轻。

◦形骸(けいかい)を土木(どぼく)にす
美詞氣，有風儀，而土木形骸，不自藻飾。
晉書・嵇康傳

中：不修边幅。

◦傾蓋(けいがい)故(こ)の如し
語曰，白頭如新，傾蓋如故。
史記・鄒陽・獄中上書自明

中：一见如故。

◦謦咳(けいがい)に接する
久矣，夫莫以眞人之言，謦咳吾君之側乎。
莊子・徐無傳

中：识荆。亲承謦咳。

◦鶏群(けいぐん)の一鶴(いっかく)
昂昂然如野鶴之在鶏群。
晉書嵇紹傳

中：鹤立鸡群。

◦鶏犬(けいけん)相聞(あいき)こゆ
隣國相望，鶏犬之聲相聞，民至老死，不相往來。
老子・八十章

中：鸡犬相闻。

注：現在中国語は同じ同典から“鸡犬之声相闻，老死不相往来”(近くいなが

Hosei University Repository

ら，全くつき合わない。)という形で使用することが多い。

◦鶏口(けいこう)となるも牛後(ぎゅうご)となる勿れ
臣聞鄙諺曰，寧爲鶏口，無爲牛後。
史記・蘇秦列傳
中：宁为鸡口，无为牛后。

◦敬して遠ざける。
務民之義，敬鬼神而遠之，可謂知矣。
論語・雍也篇
中：敬而远之。

◦兄弟(けいてい)牆に鬩(せめ)げども，外その務(あなどり)を禦(ふせ)ぐ。
兄弟鬩於牆，外禦其務。
詩經・小雅・常棣
中：兄弟阋墙，外御其务。

◦桂林(けいりん)の一枝(いっし)
詵對曰，臣擧賢良，對策爲天下第一，猶林之一枝，崑山之片玉，帝笑。
晉書・郤詵傳
中：桂林一枝。

◦逆鱗(げきりん)に触れる
夫龍之爲蟲也柔，可狎而騎也。然其喉下有逆鱗徑尺，若人有嬰之者，則必殺人。人主亦有逆鱗，說者能無嬰人主之逆鱗，則幾矣。
韓非子・說難
中：触犯(～)的逆鳞。

◦穴隙(けつげき)を鑽(き)る
不待父母之命，媒妁之言，鑽穴隙相窺，踰牆相從，則父母國人皆賤之。
孟子・滕文公下
中：私通。苟合。

Hosei University Repository

◦剣(けん)は一人(いちにん)の敵(てき)学ぶに足らず

書，足以記名姓而已。剣，一人敵，不足學。學萬人敵。於是項梁乃教籍兵法。

史記・項羽本紀

中：剣，一人敌，不足学。

◦剣(けん)を落として舟を刻(きざ)む

楚人有涉江者，其剣自舟中墜於水，遽刻其舟曰，是吾剣所從墜。舟止從其所刻者入水求之。舟已行矣，而剣不行，求剣若此，不亦惑乎。

呂氏春秋・察今

中：刻舟求剣

◦乾(けん)を旋(めぐ)らし坤(こん)を転ず。

陛下卽位以來，躬親聽斷，旋乾轉坤，關機闔開。

韓愈・潮州刺史謝上表

中：扭转乾坤。旋乾转坤。

◦言(げん)近くして指(むね)遠し

言近而指遠者，善言也。守約而施，博者，善道也。

孟子・盡心下

中：言近旨远

◦言(げん)を食(は)む

爾無不信，朕不食言。

書經・湯誓

中：食言。

◦懸河(けんが)の弁

王太尉云，郭子玄語議如懸河瀉水，注而不竭。

世說新語・賞譽

中：口若悬河

Hosei University Repository

◦ 涓涓(けんけん)塞(ふさ)がざれば，終(つい)に江河(こうが)となる
涓涓不壅，終爲江河。
孔子家語・觀周

中：防微杜漸。

◦ 原憲(げんけん)の貧(ひん)
原憲居魯，環堵之室，茨以生草，蓬戸不完。桑以爲樞，而甕牖，二室，褐以爲塞，上漏下溼，匡坐而弦。
莊子・讓王

中：甘于清貧。

◦ 犬馬(けんば)の養い
今之孝者，是謂能養，至犬馬皆能有養，不敬可以別乎。
論語・爲政

中：犬马之养

◦ 賢路(けんろ)を塞(ふさ)ぐ
在疚妨賢路，再升上宰朝。
潘岳・河陽縣作詩

中：阻塞贤路。

◦ 子養(やしな)わんと欲すれども親待たず。
樹欲靜而風不止，子欲養而親不待也。
韓詩外傳・第九卷

中：子欲养而亲不在。

◦ 功成り名遂(と)げる
金玉滿堂，莫之能守。富貴而矯，自遺其咎。功成名遂身退，天之道。
老子・九章

中：功成名遂。

Hosei University Repository

◦光燄(こうえん)万丈(ばんじょう)長し
李杜文章在，光燄萬丈長。
韓愈・調張籍詩

中：李杜文章在，光焰万丈长。

◦高閣(こうかく)に束(つか)ぬ
京兆杜乂，陳郡殷浩，並才名冠世，而翼弗之重也，毎語人曰，此輩宜束之高閣，俟天下太平，然後議其任矣。
晉書・庾翼傳

中：束之高阁。束诸高阁。

◦肯綮(こうけい)に中(あた)る
都中遇事剖析，動中肯綮，皆愕不敢欺。
元史・王都中傳

中：(言论)中肯

◦巧詐(こうさ)は拙誠(せっせい)に如(し)かず
孟孫曰，夫不忍麋，又且忍吾子乎。故曰巧詐不如拙誠。樂羊以有功見疑，秦巴西以有罪益信。
韓非子・說林上

中：巧诈不如拙诚。

◦恒産(こうさん)なきものは恒心なし
無恒産而有恒心者，惟士爲能。若民，則無恒産，因無恒心。苟無恒心，放辟邪侈，無不爲已。
孟子・梁惠王上

中：无恒产者无恒心。

◦好事(こうじ)魔(ま)多し
我見你毎毎咨嗟要調和，誰知道好事多磨，起風波，把你陷在地網天羅，如何不怨我。
琵琶記・諫父

Hosei University Repository

中：好事多磨。

◦好事(こうじ)も無きに如かず
便宜勿再往，好事不如無。
巖棲幽事

中：好事不如无。

◦好事(こうじ)門を出でず
「悪事千里を走る」の項を参照。

◦孔席(こうせき)暖まらず墨突(ぼくとつ)黔(くろ)まず
是以聖哲之治，棲棲遑遑，孔席不暖，墨突不黔。
班固・答賓戯

中：孔席不暖。

◦口舌(こうぜつ)の争い
呂澤彊要曰，爲我畫計。留侯曰，此難以口舌爭也。
史記・留侯世家

中：口舌之争。

◦巧遅(こうち)は拙速(せっそく)に如かず
日晷有限，巧遅者不如拙速。
文章軌範・有字集小序

中：巧迟不如拙速。

◦口中の雌黄(しおう)
義理有所不安，隨卽改更，世號口中雌黄。
晉書・王衍傳

中：(不適当な自分の言論を訂正する意味から)改正自己不妥的言论。
注：現代中国語の“口中雌黄”,“信口雌黄”は口から出まかせに言うという意味です。

Hosei University Repository

◦口中の虱(しらみ)

應侯謂秦王曰，王得宛葉藍田陽夏，斷河內，困梁鄭，所以未王者，趙未服也。弛上黨在一而已。以臨東陽，則邯鄲口中虱也。

韓非子・內儲說上

中：(極めて危ういという意味から)危如累卵。

注：中国語の“口中蚤虱”はたやすく打ち破ることのできる敵という意味です。

◦狡兎(こうと)死して走狗(そうく)烹(に)らる

蜚鳥盡，良弓藏。狡兎死，走狗烹。。

史記・越王勾踐世家

中：狡兔死，走狗烹。

◦溝瀆(こうとく)に縊(くび)る

豈夫匹夫匹婦之爲諒也，自經於溝瀆而莫之知也。

論語・憲問篇

中：白死。死无代价。

◦江南の橘(たちばな)、江北の枳(からたち)となる

嬰聞之，橘生淮南則爲橘，生淮北則爲枳，葉徒相似，其實味不同，所以然何者？水土異也。

晏子春秋・雜下

中：南橘北枳

◦首(頭)(こうべ)を回(めぐ)らす

① 廻頭下望人寰處，不見長安見塵霧。

白居易・長恨歌

中：(頭を後ろの方向に向けるという意味から)回頭。

② 戎馬相逢更何日，春風回首仲宣樓。

杜甫・將赴荆南寄別李劍州詩

中：(過去を振り返ってみるという意味から)回首。

◦高明(こうめい)の家，鬼その室を瞰(うかが)う

Hosei University Repository

高明之家，鬼瞰其室。攫拏者亡，默默者存，位極者高危，自守者身全。

揚雄・解嘲

中：高明之家，鬼瞰其室。

◦毫厘（ごうり）の差は千里の繆（あやま）り

易曰，君子愼始，差若豪耗，繆以千里。

禮記・經解

中：差之毫厘，缪以千里。

◦黄粱（こうりょう）一炊（いっすい）の夢＝“邯鄲（かんたん）の夢”同じ

◦亢竜（こうりょう）悔（く）いあり

上九亢龍有悔。

易經・乾卦

中：亢龙有悔。

◦剛戾（ごうれい）自（みずか）は用う

始皇爲人，天性剛戾自用，起諸侯，並天下，意得欲從，以爲自古莫及已。

史記・秦始皇本紀

中：刚愎自用。

◦紅炉（こうろ）上一点の雪

顔子克己，如紅爐上一點雪。

續近思錄

中：红炉点雪。

◦氷は水より出（い）でて水より寒し

學而不可已。青取之於藍，而青於藍。冰水爲之而寒於水。

荀子・勸學

中：青出于蓝。

◦木陰（こかげ）に臥（ふ）す者は枝を手折（たお）らず

Hosei University Repository

食其食者不毀其器，陰其樹者不折其枝。

韓詩外傳・二

中：阴其树者，不折其枝。受人之恩，不以仇报。

◦呉下(ごか)の阿蒙(あもう)

肅拊蒙背曰，吾謂大弟但有武略耳，至於今者，學識英博，非復吳下阿蒙。

三國志・吳志・呂蒙傳・結友

而別裴松之注引晉虞溥江

表傳

中：吴下阿蒙。

◦呉牛(ごぎゅう)月に喘ぐ

滿奮畏風，在晉武帝北坐，北窗作琉璃屏，實密似疏，奮有難色。帝笑之，奪答曰，臣猶吳牛見月而喘。

世說新語・言語

中：吴牛喘月

◦鵠(こく)を刻(こく)して鶩(あひる)に類す

效伯高不得，猶爲謹勅之士，所謂刻鵠不成尙類鶩者也。

後漢書・馬援傳

中：刻鵠类鹜。刻鵠不成尚类鹜。

◦虎穴(こけつ)に入らず虎子(こじ)を得ず

官屬皆曰，今在危亡之地，死生從司馬，超曰，不入虎穴，焉得虎子。

後漢書・班超傳

中：不入虎穴，焉得虎子。

◦心合わざれば肝胆も楚越の如し

仲尼曰，自其異者視之，肝胆楚越也。

莊子・德充符

中：肝胆楚越

Hosei University Repository

◦心ここに有(あ)らず

心不在焉，視而不見，聽而不聞，食而不知其味，此謂修身在正其心。

禮記・大學

中：心不在焉。

◦志(こころざし)合えば胡越も昆弟(こんてい)たり

意合則胡越爲兄弟，由餘子藏是矣。不合則骨肉爲讎敵，朱象管蔡是矣。

漢書・鄒陽傳

中：意合則胡越为兄弟。

◦志ある者は事竟(つい)に成る

將軍前在南陽建此大策，常以爲落落難合，有志者事竟成也。

後漢書・耿弇傳

中：有志者事竟成。

◦甑(こしき)に坐(ざ)するが如し

自從五月困暑濕，如坐深甑遭蒸炊。

韓愈・鄭羣贈簟詩

中：暑气熏蒸。

◦五十歩百歩

王好戰，請以戰喩，塡然鼓之，兵刃既接，棄甲曳兵而走。或百歩而後止，或五十歩而後止。以五十歩笑百歩，則何如。

孟子・梁惠王上

中：五十歩笑百歩

◦虎鬚(こしゅ)を編む

疾走料虎頭，編虎須，幾不免虎口哉。

莊子・盜跖

中：捋虎须。

◦股掌(こしょう)の上に玩(もてあそ)ぶ

Hosei University Repository

將還玩吾國於股掌之上，以得其志。

國語・吳語

中：玩弄于股掌之上。

◦古人の糟粕（そうはく）

桓公曰，敢問公之所讀爲何言耶。公曰，聖人之言也。曰，聖人在乎。公曰，已死矣。曰，然則君之所讀者，古人之糟粕已夫。

莊子・天道

中：古人之糟粕。

続く